

キャラクター名  
ティード・テルマン

プレイヤー名

種族	フィー	種族特徴	妖精の加護、浮遊		
生まれ	妖精使い	性別	男（男性型）	年齢	14
冒険者Lv	8	経歴	愛読書を持ち歩いている（いた）		
経験点	3030		純潔である 師と呼べる人物がいる		

技	6	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
		器用度	10	6		22 + 1	3
体	8	敏捷度	14	8		28 + 2	5
		筋力	2	1		11 + 2	2
		生命力	4	5		17	2
心	14	知力	4	2		20	3
		精神力	6	4		24	4

技能	Lv.	技能	Lv.
グラップラー	8		
フェアリーティマー	2		
スカウト	7		
エンハンサー	3		
バード	2		
アルケミスト	1		

戦闘特技			
追加攻撃	220 p		p
投げ攻撃	225 p		p
カウンター	2120p		p
鎧貫き	1B39 p		p
トレジャーハント	2120p		p
ファストアクション	2123 p		p
魔力撃	227 p		p
防具習熟/非金属鎧	222 p		p
頑強	218 p		p
両手利き	1B32 p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
ドラゴン語	○	
魔動機文明語	○	○
妖精語	○	
グラスランナー語	○	
ソレイユ語	○	
手話	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
キャッツアイ	
マッスルベアー	
アンチボディ	
ビビット	
レジスタンス	
ヴォーパルウェポン	

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	8	11	13	10
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾	必要 ランク	必要 筋力	必要 回避力	必要 防護点
鎧		5	1	2
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				1
回避技能	グラップラー	合計値	14	4

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
パワーリスト+1『真・怖い怖い女王さまの鉄拳制裁』 <small>グラップラー専用、パンチ強化、オーダーメイド3 (ダメージ+12)、魔法の属性付、魔法は「火・氷・雷・風・毒・重力」</small>	1H	12	1	2d+ 13	9	11	7										
スパイクブーツ『勇ましき妖精王の猛打』 <small>グラップラー専用、キック強化、オーダーメイド+1、魔法は「オバロン=ストライク」</small>	1H#	2	-1	2d+ 10	10	10	12										
投げ グラップラー専用	2H	0		2d+ 11	12	10	0										
セスタス <small>グラップラー専用、パンチ強化、オーダーメイド+1、パワーリストを加工するための予備品</small>	1H	2	1	2d+ 12	10	10	2										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	30 m	90 m

回避	防護点
2d+ 14	4

HP
58

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
妖精魔法	2	5			

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 0/X	2d+ 12

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 10	2d+ 12

MP
32

装備品	説明
頭	バンダナ (宝石ケース付き) 宝石ケース (革製) をブローチにして留めてある
耳	蝙蝠の耳飾り 目が見えなくても行動できるようになり、攻撃などを打たせるときはナルティ修正を「-2」に軽減できる
顔	勇者の証：体 能力の成長をある程度操作する
首	ポーションインジェクター スカーレットポーションin
背中	ウェポンホルダー 【ミュージックシエル】背負子背負子
右手	剛力の腕輪
腰	多機能ブラックベルト
足	軽業のブーツ 転倒しなくなる (転倒効果を受けても即座に起き上がる。ナルティなし)
その他	宗匠の指輪

装備品	説明
左手	疾風の腕輪
	アルケミーキット

その他メモ	自動失敗 チェック
ノーヴィスヴィアの大工の親方、アベル・テルマンの養子。この世界に降りて間もない頃に森で木を切っていたアベルと出会う。名前を聞かれた際に「ナマエ？何それ英雄！？」と返し、呆れたアベルから"太陽"を意味するティードという名前をもらう。以降、アベルの子供として扱われ、大工である彼の仕事を手伝うようになった。格闘術はアベルに基礎を叩き込まれたもの。アベルに対する呼称は「父さん」。息子として扱われているのは、「お前どっちだ？」「んと、んと…。多分男！おっぱいもないもん！」という会話があったため。	□□□□⑤
ある日、アベルと共に温泉宿に泊まったティードは、その温泉で子供たちに酷くからかわれた。「男だって言ってるくせにアレが無いじゃないか！」フィーであるティードには明確な性別が存在せず、また生殖器が備わっていなかった。自分はフィーなのだから当たり前だ。と思っていたティードにとってその言葉は衝撃的であった。無いと男として扱ってもらえない。温泉から帰った後でそう嘆いていると、アベルから拳骨をお見舞いされる。びっくりしているティードにアベルは静かに問いかけてきた。「大事なのは、ためえがためえをどう思い、どうありたいと願うかだろうが、バカ息子」「ティード、お前の心はどうありたい？」かつて聞かれたことと同じ質問に「男…」と返したティードに「じゃあこれからもこの先も、ためえは男だ。自信を持って、ティード」とアベルは返してきた。その顔はとてども頼もしく、以降ティードはアベルを「カッコいい男の人」と認識し目標とするようになる。	□□□□⑩ □□□□⑮ □□□□⑳ □□□□㉑ □□□□㉒ □□□□㉓ □□□□㉔ □□□□㉕

